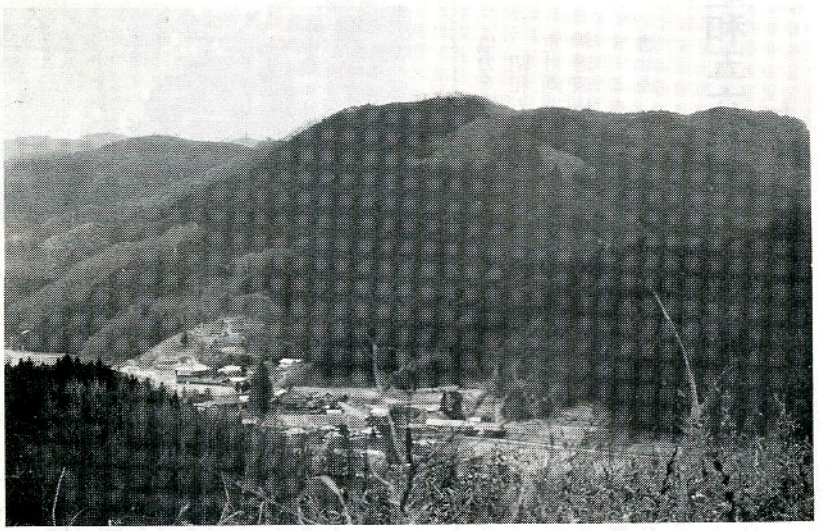
広報
さめがわ
昭和56年
1月号
No. 325
編集兼発行
鮫川村役場
塙町佐藤印刷所

山王山の朝あけ

中空に大地の息吹き盛るごとく山王山は臥して動かず
この郷のみおやの教え偲ばるる木々のみどりの朝あけはよし

曙峯

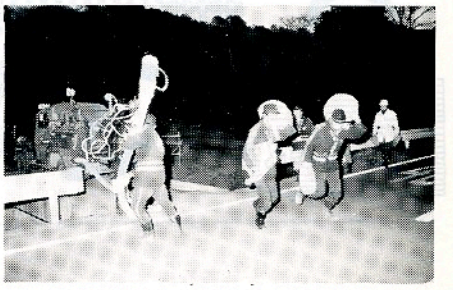


山王山は渡瀬の中心集落の東方をかこむ山塊の主峯、標高654.7ｍ。その雄大な山容は自ら王者の風格がある。
全山杉の造林で覆われ、住民の勤労と愛林の性格が象徴される。

- ⦿ 6日　消防出初式
- ⦿ 15日　鮫川村成人式
- ⦿ 12月15日～1月14日　年末年始交通事故防止県民運動
- ⦿ 12月15日～1月14日　年末年始防犯運動

今月の人口
（12月25日現在）

人口	5,647	（－3）
男	2,809	（－4）
女	2,838	（＋1）
世帯	1,150	（0）



鮫川村消防団と常備消防鮫川分署の合同による火災防禦訓練は、暁の闇を突いて、師走の２日午前６時西山字摺合地内で行われました。

この訓練は水利条件の悪い集落での団と署の連携による送水中継を重点としたものですが、団員署員の緊密且つ敏速な動作で良好な成績を納めました。



冷害の減収を少しでも現金収入でカバーするため、村が各地区で実施している救農土木事業に、熱心な農家の方々が寒風の中で就労しておられます。ほんとうにご苦労さまです。

身体をいたわりながらケガなどしないように、元気に働いてください。写真は青生野反谷地農道の現場です。

年頭の特別警戒

今年こそ無火災を記録するよう消防署では年頭の特別警戒を行っております。

村民一人一人のご協力をお願いいたします。　（棚倉消防署鮫川分署）

昭和五六年によせるねがい



村長　石田卯子八

昭和五六年の新春を迎え、村民皆様の一層の御健勝と御多幸を祈りつつ、鮫川村の限りなき繁栄を祈念いたします。

冷害の対応にあけくれた昭和五五年の後半は、暗く且つ忽忙のうちに経過しましたが、また得難い教訓を与えてくれた年でもありました。

阿武隈山系地域の冷害凶作は古い時代から文献口碑に伝えられるところですが、近年社会情勢の変化や農業技術の進歩などで、その深刻な認識が稀薄になってきたことは否定できません。

今改めて昭和五五年程度の冷害に対しては、農業技術も営農方式の改善も、まだまだ力弱き水準であることを覚るべきであります。

大冷害は二年続くことがあり、また冷害の二年目が農村経済にとって容易でない年であることの理解に立って真剣な努力が必要であります。

再建の途に、新しい技術の検討経営面の改善、経済機関や行政の果すべき役割りなど、十分連携と協力を強化したいと思います。

昭和五六年に村が実施すべき既定計画は、新農業構造改善事業、新過疎地域振興計画等でありますこれらの諸計画は国の財政再建計画により節約繰延べを求められるものもあるかと思います。村の実態に即して慎重に選択を進めたい考えであります。

新農構計画の第一年次は、集落センターなど大字行政区や農事組合などの集会施設の建設が中心になりましたが、第二年次のこの年は村の中央施設としてのトレーニングセンターや遠隔地集落のための体育施設など、住民皆様の健康や体力増強のための施設整備が予定されております。

またそれとともに重要なことは心の健康、文化、教育のことでありますから、新設された歴史民俗資料館なども十分活用して豊かな心、文化的な教養を高める施策を進めたいと思います。

新しい年に数々の希望と願いをこめて今年もまた皆様のうえに、幸多く福祉の豊かなることを重ねてお祈りいたします。

児童手当を受給されている方へ

児童手当の支払いは、毎年六月、一〇月及び二月に、それぞれの前月分（四か月分）まで支払っており、その都度支払通知をさしあげていましたが、支払額が一定額であり受給者の皆さんも受給額を承知されているため、今年の二月支払い以降については支払い通知をいたしません。

なお、支払い日は各支払い月の九日（その日が日曜日に当るときは、その前日）に受給者の鮫川村農業協同組合の預金口座に振り込みます。また、年途中で児童の増減等により額改定があったときは、いままでどおりその都度通知します。　（住民課）

おめでた

一一月
楢久保　森　泉父森　洋
一二月
青生野　大森　美幸父大森嘉幸
鐘撞堂　鈴木　大輔父鈴木則男
福　原　蛭田　由衣父蛭田啓喜
落　合　我妻　充父我妻房吉

おくやみ

	年齢	世帯主
一二月		
下　菊地	シナ80歳	菊地末次
蕨ノ草　渡辺	タケ94歳	渡辺　朗





慶徳農協から贈られた救援米の話題は、冷害の秋に咲いた人情の花、友情と善意の贈りものとして、新聞、テレビでも賞賛されましたが、村ではこれを農協職員、婦人部役員の協力により5kgにつめかえ飯米不足の農家に差上げ感謝されました。

この贈物に感謝した青生野区長長井久男さんの慶徳農協に宛てた感謝の礼状が、大川原組合長さんによって、先方の農事組合長会議で披露され、参会者の感動を呼び、慶徳町と当村の友情の絆が一層強いものになりました。

年頭のあいさつ



議長　芳賀喜一

新しい年を迎え、村議会を代表してつつしんで村民の皆様がたの御健勝を、お喜び申し上げます。

昨年は、国の内外とも多事多難の年でありました。

特に、本村の冷害については、明治三八年の凶作と等しいと言われる農作物の不作となり、飯米に不足する多数の農家の皆様に心からの並々ならぬ、御心労のこと推察いたします。

これらの冷害に関連する諸問題に対応するため、議会人といたしましては、村執行機関と相協調して、財政の許す限り最大限の効果をあげるため、一丸となって努力すべき年であるとともに、村民各位とこの冷害の試練を、不屈の意志力で力を合せて困難を克服し、明るい豊かな村づくりに努めるべきと考えております。

また一般村政の事業等については、国の赤字財政再建の厳しい状況でありますが、執行機関と連携しながら、前年以上に国、県に対し、その対策を強く働きかけますとともに、村政の伸展のため、できるだけの努力をいたしたいものと決意を新たにするものであります。

皆様がたの変わらぬ御支援と御協力をせつにお願い申し上げますとともに、年の初めに当り、本年の農作物の豊作と皆様がたの一層の御多幸をお祈りいたしまして、年頭のごあいさつといたします。

昭和56年度の新入学児童は次の方々です

昭和五六年四月、村内の小学校に入学するお子さんは、昭和四九年四月二日から昭和五〇年四月一日までに生まれたお子さんです。

昭和五五年一二月一日現在の調べでは八一名あります。

入学予定のお子さんは次のとおりですが、名前が違っていたり、もれていましたら昭和五六年一月二〇日までに村教育委員会学校教育課（電話三一五一番）に申し出て下さい。

◎青生野小学校　五名

児童名（保護者名）生年月日順

森田好夫（敏男）　長久保仁一（光市）　生田目満（勝利）　笹島敏（光儀）　中島悦男（文雄）

◎渡瀬小学校　八名

下重明（実）　芳賀文彦（文行）　蛭田みゆき（栄）　芳賀洋恵（正訓）　藤田朝子（洋子）　蛭田亜紀（守）　山形祐子（賢一）　芳賀靖子（元治）

◎富田小学校　七名

渡辺秀樹（昭美）　青戸弘子（孝夫）　生田目真子（定之助）　円谷里美（鶴男）　赤坂国子（一郎）　松本久美子（恵治）　根本ミイ子（幸一）

◎西野小学校　八名

斎藤克也（弘和）　鈴木博勝（新市）　薄葉昌章（正一）　西野誠治（長治）　須藤理恵（好）　舟木則子（春吉）　矢吹真弓（正二）　舟木裕子（金一）

◎西山小学校　二二名

緑川賢一（勝美）　関根直人（政信）　阿久津智典（順一）　我妻正紀（佐利）　関根幸治（啓太郎）　須藤博（良孝）　大竹守（洋喜）　我妻英樹（光男）　阿久津俊文（一男）　関根忍（貢）　高野眞（博光）　斎藤美和（芳信）　石井久美子（久夫）　水野喜美子（一美）　関根和子（勝義）　根本由美子（日出雄）　高木美代子（雪廣）　市川珠江（正尚）　関根由起子（正）　坂本美香（忠雄）　関根裕子（英也）　高野恵美子（長二）

◎鮫川小学校　三一名

生田目昌信（春雄）　鈴木孝次（正孝）　鈴木晴之（正晴）　白坂哲章（寛）　中川西寿幸（満）　金沢賢嗣（一四）　宗田真（雅之）　前田量蔵（初）　山本広三（実）　諸橋晴彦（正則）　中川西強（源逸）　溝井武治（信次）　大橋滋（邦次）　湯坐剛（孝友）　藤元浩二（健次郎）　鏑木末男（正昭）　金沢雅俊（吉衛）　芳賀次男（逸義）　須藤重晴（勝代）　前田さおり（正喜）　星恵（宗一）　湯坐和美（和弥）　佐川仁子（一郎）　山本里美（元次）　山本洋子（登）　円井ひとみ（義生）　前田優子（英雄）　中川西由美子（正夫）　田子啓子（照美）　渡辺加代子（保男）　佐藤裕美（元治）

期待する

武三蔵子幸
卓七華清
藤田井賀川
斉藤円有緑

中野稚蚕飼育所主任
商工会長
青年会長
婦人会長
司会(総務課長)



司会　昭和五五年は、我が鮫川村にとって明治三八年以来七五年ぶりの大冷害に見舞れました。

そこで今年、昭和五六年は〝とり年〟ですので昨年の冷害の影響を克服し、自由にはばたけるような飛躍の年、明るい年であってほしいものです。

本日は「新しい年に期待する」と題しまして、村内各界を代表する皆さんに今年の抱負、あるいは計画などをお話いただきたいと思います。

まず始めに、村の計画などを村長からお願いします。

村長　昭和五五年は一九八〇年代の幕開けの年で「地方の時代」「文化の時代」といわれ、たいへん希望の多い年でありましたが、未曾有ともいうべき大冷害に遭遇して異例の激甚な災害を受けました。

それで昭和五六年は冷害の翌年にあたり、後遺症も出ますし、大冷害は二年続くということも過去において幾度かありましたので、この点にも十分心を配りながら最善をつくして、夢と希望に満ちた明るい年にしたいというのが念願であります。

そこで冷害に対処するために、まず新しい農業の再生産対策を確立することが大切であります。それには中核農家の意欲を高揚すること、冷害に抵抗性の強い農業を再建することが重要であります。

それから農業の資金面、あるいは食糧米不足の対策、現金収入を確保する問題など種々困難な問題はありますが、村、農協、農業委員会、土地改良区、そのほか農業団体の協力体制の強化が必要であります。これら諸機関、諸団体の一致協力と住民皆様の総参加によって冷害の後遺症を克服し、新しい強力な農業を築いていくことを目指したいものです。

次には村の行政の進路というべきものですが、「地方の時代」、「文化の時代」といわれている折ですから、それにふさわしい、しかも地についた行政の施策を展開して行きたいと思います。

昨年は村の過疎地域振興計画を立て、今後五年間の計画や一〇年先の行政の進むべき方向というものをまとめました。

次に新農業構造改善事業も指定を受けて二年目になり、計画された事業は逐次これを実行に移していく予定であります。

さらに今年は第三次山村振興計画を立てる村に指定される見込みで、この計画の中に盛り込む事業は村民のご意向を十分にお聞きしまして、それぞれの機関で審議をいただき、立派な計画を作成したいと考えております。

既定の計画を尊重しながら、さらに新しい時代に即応する計画を樹立してこれを着実に実行していくのが、昭和五六年の村の行政の基本的な考え方です。

具体的には、鮫川小学校が二年がかりで完成しました。昭和五六年からは新しい校舎で教育が行われますが、教育活動も新しい時代に即応する立派な教育が行われることを期待しております。

それから村にはあまり文化施設がなかったのですが、このたび歴史民俗資料館が完成しましたので、内容を整備、充実して村の文化を高める意欲的な運営、管理を進めていきたいと考えています。

次に村の体育施設、これは村民の健康を増進する上で大事な施設ですが、昭和五六年には村の中心から遠い集落の方々のため、遠隔集落の体育館と、五六年、五七年の二か年計画でトレーニングセンターを完成させたい。これは屋外プールやシャワー室などもある総合的な体育館を予定しています。

しかし、なんといっても本村は産業構造が農業を基幹とする村でありますから、農業生産の基盤になる土地基盤整備事業は、農構事業、県単事業、公共事業等を入れて、土地改良区にもご盡力願って極力進めていきたい考えです。

それから交通通信施設の整備ですが、ある程度までは道路もよくなってきてはいるが、昭和五六年度は村内一六路線ほど改良、ほ装の計画を持っています。

なお教育、文化、生活環境の整備、あるいは土地改良以外の産業振興の施策などは、それぞれ新しい年度の財政を勘案して、村民の期待に応えられるよう、明るく住みよい郷土をつくることに努力していきたいと考えています。

司会　それでは、次に農協の藤田組合長さんから営農指導や農協関係の全般についての計画などをお願いします。

冷害に強い農業を



農協組合長　先程村長さんからもお話しがありましたように、昭和五五年は大冷害で農協も組合員とともに苦しい年でありました。

そこで昭和五六年は、組合員とともに良い年であるようにがんばっていきたいと考えています。

昭和五五年の販売総額をみてみますと、平年ですと米、しいたけ、そ菜、養蚕、たばこ、こんにゃく、畜産などで販売代金が一二億円位ありますが、昨年は八億七千万円位に終ってしまい販売代金が非常に減収したわけです。

これらの対策については、昭和五六年より三か年の農業振興計画を樹立いたし、強力に推進して冷害の後遺症を解消したいと考えています。

まず五六年は春のそ菜、春蚕など手短かなところからこれらの対



新しい年に

新春座談会

出席者　（敬称略）

村長　石田卯子八男
農業協同組合長　藤田秀一
土地改良区理事長　吉田義

策を講じていきたいと思います。さらには五五年度でたばこの育苗施設が完成しましたので、共同育苗を実施して良い品質を作って増収に努めていきたい。

それと昨年の冷害で経験を得たことは、鮫川村でも銘柄米が非常に普及したわけですが、いちばん被害を受けたのはこの銘柄米で、そこでこれらの水稲についても見直しをしなくてはならないと考えています。

特に被害の少なかったのは本村の場合、畜産だと思います。畜産事業については年々繁殖牛が増えているわけですが、さらに繁殖牛を拡大しながら鮫川村に畜産基地をつくっていきたい。それと営農指導員、畜産指導員を増員して営農相談室の強化を図り、昭和五六年以降の農業経営を進めていきたいと考えます。

司会　どうもありがとうございました。

村長　今、組合長さんのお話にあったように、冷害の経験を十分に生かしていかなくてはならないわけで、冷害の受ける度合いが最も少ないのが畜産であります。

これから一層畜産の拡大を図って所得を確保するような営農を本村としては進めていかなくてはならないと思います。

それから養蚕のことですが、これも全く冷害を受けないわけにはいきませんが、冷害を受ける度合いが低いし、夏の期間収入の少ない時期に所得になりますから本村としてはもっと養蚕を拡大しなくてはならないと考えます。

適切なご計画です。

司会　農協組合長さんからお話がありました農業の振興については何といっても土地基盤整備が不可決の条件となるようですが、土地改良区の吉田理事長さんから土地改良事業の計画などを含めましてお話いただきたいと思います。

馬場地区のほ場整備を実現したい



吉田理事長　昭和五五年大冷害を受けた年で非常に感心したことは、昨年一一月二六日喜多方市の慶徳農業協同組合が鮫川村に九〇〇kgもの救援米を送ってくれたことです。

人間の善意というものに改めて感を深くした年でした。これは冷害の年でなければ味わえない非常に崇高な人間の気持ちだと私は考えています。

土地改良事業ですが、昭和五六年の事業としましては新農構事業で実施している塚本地区及び岩野草地区、それに団体ほ場整備の西山地区、また小規模排水事業の中山地区の継続事業をすみやかに完成すべく、受益者の希望にそうよう努力していく考えです。

新規事業として団体ほ場整備事業馬場地区を計画しましたが、だいたい予算が採択になる見通しです。この地区は面積が二二ha、馬場、鬼越、戸倉地区の関係農家二四戸で事業費は現時点で二億六二〇〇万円という巨額になっていますが、三、四年計画で実施完工したいと考えています。

そのほか、水田の汎用化ということも考えまして公共事業も取り入れ、これまた受益者の皆さんのご希望にそうように進めていきたいと思います。

次に教育問題ですが、いつも考え話しているのですが「教育と産業」が一体となって進む村づくりを進めていかなければならないと考えるわけです。

そこで村の多くの事業計画の中で、巡ケ作地内、通称舟木一帯に国道三四九号線のバイパスができ村の公園ができ、トレーニングセンター、農業技術センター、歴史民俗資料館ができ、すでに山村開発センター、幼稚園、診療所、中学校、村民運収場ができているので、これらは他の町村では類をみない村民文化施設の集中地で、すばらしいことだと思います。

これからは建物、外観ばかりでなく小学校教育から社会教育、生涯教育全般を含めまして心の教育の時代、人間形成の時代だと思いますので、村の中心的な建物を中核として教育の質的向上を目ざして進めていかなければならないと考えています。

それから農業耕種改善の問題ですが、冷害後遺症の年ですからこれからに備えて若い人たちにもこれをいかに克服するかということを勉強し考えていただく年にしたいものです。

司会　ありがとうございました。

村長　産業と教育、文化の結びつき、あるいは一体化を進めるため、お話のように農村公園、開発センター、幼稚園、トレーニングセンターなど館山とその周辺に配置する計画を進めているわけです。

冷害の克服、産業の振興といいましても基本は心の問題であって、文化の時代はモノより心の時代といわれるように、経済一辺倒から人間の心を大事にする、豊かな心を養うべき時代であります。

昨年、文化祭の一環として冷害克服農業シンポジウムを開いたときのことです。集まった人たちが熱心に研究討議に参加したわけですが、集った人たちからこの会にもっと若い人たちにも参加してもらいたかったというご意見が多く出ました。

今、吉田さんがいわれるように、若い人たちにも産業の開発や研究

に関心をもっていただくような年にしたいということは意義深いご意見です。

司　会　昨年は大冷害のため、桑の生育も悪く養蚕も減収したようです。それで、稚蚕飼育、桑園管理などを含めまして養蚕全般についての抱負や計画など中野稚蚕飼育所主任の斉藤さんにお願いします。

養蚕後継者問題について考える



斉　藤　先程、農協組合長さんからお話しがありましたように養蚕関係もご多分にもれず、冷害をこうむっているわけですが、季節的に現金が入るという大きな特徴をもっています。これは村としても進めて行かなくてはならない産業のひとつだと思います。

そこで私は養蚕全般について、私なりの考え方を話してみたいと思います。

一つは養蚕農家が減少していることです。

指導する先生方は一生懸命になって指導してくれているのですが、なかなか追いついていかないわけです。

稚蚕飼育所の稚蚕桑園も相当完備していますし、施設面でも空調式に替わるという話しもありますので稚蚕飼育に対しては一つも問題はないわけです。

もう一つは養蚕家が老齢化してきていることです。

養蚕は季節的によい時期に現金が入るし、非常によい産業なのですが、若い人が後を継がないで五〇、六〇歳になって養蚕を始める人が非常に多くなっていることが悩みの種です。

これを何とか村なり農協なりで本腰を入れていただいて、ますます産業として伸ばしていくような方向になれば養蚕業も決して悪いものではないと考えるわけです。

司　会　ありがとうございました。

農協組合長　昭和五六年度の養蚕の計画は五万kg以上、一億円以上を確保していきたいと考えて、養蚕の指導員とも協議し計画を樹立して推進したいと思います。

それで、先程斉藤さんからお話があったように新農構事業の最後の年度に稚蚕飼育所を改築する予定で、今計画を進めています。



農村公園に予定されている館山

村　長　養蚕は鮫川村の産業の中では、かつては華やかな時代があって製糸工場もあり、蚕種やさんもありました。それが只今斉藤さんが心配されるように老齢化して後継の若い人がなかなかついてこないようになっています。

国では今後一〇年の見通しで生糸の生産量、一割増を見込んでいるようなので、村としては養蚕を一、二割増やすつもりで計画を推進する必要があろうかと思います。

それで、村の稚蚕飼育所は郡内では初めて造ったもので、空調式などを取り入れ、設備機械も新しくしたいということで農協では今改築を計画しています。

若い後継者の皆さんにも興味をもっていただき、新しい時代の養蚕業として振興を図りたいものです。

司　会　次に商工会では、今年商工会館建設の計画もあるようですが、これらを含めて商工業の振興などについて藤田会長さんからお話いただきたいと思います。

今年中に商工会館の建設を



商工会長　昨年の大冷害は商工業にも影響があり何かと苦しい状態になっています。

なお、資金面ついては村の資金の枠を増加してもらい、五五年度は四月から一一月までで五五件、一億二、三〇〇万円の融資を商工会で斡旋していただきました。冷害により五六年も今後一層苦しい状態になると思いますので、村の融資制度の拡充を要望いたします。

次に商工会館の問題ですが、村や議会議員さんのご努力によりまして県、国に陳情を続けています。

冷害により村の補助、商工会会員の負担も容易でないと思いますが、会員全員が是非建設したいということですので、昭和五六年には是非会館の建設を実施したいと考えています。

会館の規模ですが、鉄骨二階建、面積は延三三〇㎡の計画で、一階は事務室、相談室、資料室、二階は研修室の予定です。

事業費は四、〇〇〇万円で国、県の補助が一、五〇〇万円、それに村の補助をいただき、会員の負担金で建設する考えです。

商工会館建設につきましては、村のなお一層のご協力をお願いします。

それから村内の建設業者の問題も村当局並びに皆様方のご指導により工事の受注がたいへん増大しています。心より感謝申し上げる次第です。建設業者については今後も研修や講習会等を実施いたしまして技術の向上を図っていきたいと考えますので、一層のご指導をお願いいたします。

司　会　どうもありがとうございました。

村　長　冷害の影響は直接的には農家に強く及んでいますが、その農家を対象にしている本村の商工業もまた大きな影響を受けることになります。昭和五五年より昭和五六年の方が商工業者に及ぶ影響は大きいと考えられるので、今お話がありましたように村の資金も利用して経営の充実、改善に努めていただきたいと思います。資金の枠については、よく相談していきたいと考えています。

それから商工業者がお集りになる拠点的な施設としての会館の建設、これも長年計画していたことですから、是非五六年には完成させていただきたい。それで県にはしばしば陳情し、国の方にもこの間陳情して来ました。

国の中小企業庁では心配している点が三つあるという話でした。

一つは敷地の問題で、確保でき

るかどうか。

次は資金の問題で国の補助金は出すとしても地元会員の負担金が予定どおり集まるかという問題。

それと援助する町村の助成が相当額出るかどうか。この三点を指摘していました。

それで、敷地は村が世話をしていちおう予定地が決っているし、会員の負担金も役員会、総会で了承を得ているし、村の補助金もなるべく努力したいと話したが、それではあまり問題がないので、県から上ってくれば前向きに対処するということでした。

商工会の皆さんも趣旨をよく理解され、今後五〇年、六〇年も使う会館を建設するわけですから、がんばっていただきたいと思います。

司　会　これからの時代を切り開いていくのは青年の皆さんの活力であると思います。

最近、村の青年会の活動も幅広く盛んになったようにみうけられます。今後の計画や抱負などを円井会長さんにお願いします。

学習会の計画と
村民運動会の開催を望む



青年会長　青年会も事業、活動の面では幅広く活発になってきてはいますが、現実的な問題として会員が減ってきています。二、三年くらい前までは会員が二〇〇名いたのですが現在は一五〇名くらいで一年間に三〇名くらいづつ減少しています。

鮫川村にも青年は二〇〇名以上いるのですが、いても入らない。新しく入ってきても分会ごとに一人か二人ぐらいですし、加入していても実際、活動しない会員が多いわけです。

そこでなぜ入ってこないのだろうと自分なりに役員などで話し合ってみたわけですが、まず一つは農業従事者が少ないことです。いても大体二、三人あとは兼業とか冬期間は出稼ぎに行ってしまうので活動が停滞ぎみになります。

それと鮫川村には働く場所が少ない。青年会員などを調べてみるとかなり遠くまで働きに行っています。そういう人たちの話を聞きますと、勤めから帰って来てから青年会の会合にはなかなか出席しにくいということが聞かれます。

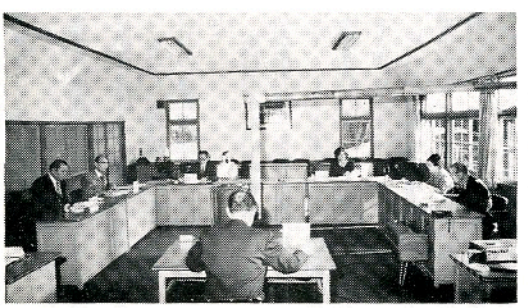
女子青年なども年々減ってきています。

そこで昭和五六年の青年会は、心のふれあい、心のつながりを大事にして、一人一人の和を広め、学習会などを行ってみたいと考えています。また会員の勧誘もしたいと思います。

村　長　こういうことをしてみたいというようなことは何かありませんか。

青年会長　何年か前までは村民運動会を行っていたわけですが、毎年青年会が行っている駅伝大会や村が主催しているスポーツ大会などを一つにして、青年、婦人、老人などを集めて大運動会を実施しはどうかと思います。

村　長　青年会長さんのご意見で、会員が少なくなり会合になかなか出てこないという問題はどこも同じで、これは村内の職業構成、就業構造が多様化したことが一因です。就業の構造が複雑になってきたので集まりにくい。心のつながり、ふれあいがだんだん少なくなってくる。そのため、会に求めるもの、望むものが多様化し、一致しなくなり、なかなか集まらないということになるようです。



以前は青年会には誰も彼も入会したものですが、今は入退会も自由な自主的団体ですから役員の皆さんの苦労もたいへんだと思います。

昨年、駅伝競走の開会式に出席しましたが、おどろくほど青年が集まりましたね。まだまだ鮫川村の青年は青年会活動に対して興味もあり関心もある。進めようによっては一層盛んになって行くのではないかと考えます。

それから、昭和五六年の事業として青年が集まって学習する機会をつくりたいという考え方、学習というものに関心をもって集まる。言いたいことを自由に話すということ自体、よいことですから是非そういう機会をつくるべきであろうと思います。ただ、やり方が問題で、普通とは変った方法で会員を集めてみるのも一つの方法ではないでしょうか。

もし、そのような研修や学習会を行うときは村でもお手伝いをしたい。

それと会員の問題ですが、農業をしている者だけの会だと農業青年会になってしまうから、勤め人も会に入ってもらうことが望ましい。それから、勤め人は会合に出られないというが、勤め先の責任者に理解を求めることも必要であろうと思います。

次に、村民運動会ということですが、これもおもしろい催しで村でも以前に何年かやってみたがだんだん人が集まらなくなり、結局は小学校単位ぐらいになっているわけです。しかし、これも三年に一回、五年に一回でもよいから村中全部集って運動会を計画してみるのもよいことだと思います。

それから駅伝は鮫川村の伝統的な行事であるから続けたいものです。

司　会　婦人会のボランティア活動も盛んになったようです。また生活の合理化運動を進めているわけですが、昨年の大冷害の実態を踏まえて今年あたり、さらに前進するためのよいチャンスのように考えます。これらを含めまして、婦人会の活動、計画など有賀会長さんにお話しいただきたいと思います。

生活合理化運動と
奉仕活動の推進を



婦人会長　昭和五五年度の婦人会の活動としては明るい住みよい地域社会づくりを目ざして青少年の健全育成問題、生活の改善問題、特にエネルギーや、物を大切にする問題また奉仕活動の推進というこの三つを重点目標に取り上げ、活動を進めてきました。

今年度もこの三つは、やはり大

切な問題なので、継続して進めて行きたいと考えています。

その中で特に生活の合理化運動として、消費生活の見直し、かしこい消費者として節約運動は一層進めなくてはならないし、簡素化運動もあわせて進めていきたいと思います。

新生活運動の一つとして、病気の御見舞返しの廃止などは、ある程度徹底してきたところもあるようですが、お祝の行事などは、年々盛大になり、豪華な引き物などについてもやはり婦人として考えていかなくてはならないと思います。この問題は婦人会だけの力ではどうにもなりませんので他の団体と協力し、特に行政にお願いして協同歩調で、しかも強力に推進していかなくてはならない問題だと考えます。

また地域のためのボランティア活動ですが、私たちは積極的に地域の課題解決のために奉仕することが大切だと思います。

私たち婦人として何をすることが大切なのかよく考えて、有益な奉仕活動をよく検討しながら進めていきたいと考えます。

次に国際婦人年を契機として、主体的に行動する婦人（自分の考えをもつ、考える婦人）ということを取り上げてみたいと思います。

もともと婦人会は、自主的団体ではありますが与えられないと、活動ができないようなこともみられますので、自分達でどういうことを学ぶことが大切かよく考え、自主学習グループをたくさんつくり、小集団の活動を活発にしていきたいと思います。

また、鮫川村でも就労婦人が年々増加していますが、就労婦人と婦人会活動についても考えていかなくてはならない問題です。

それと村内に農協婦人部、商工会婦人部などの各種婦人団体がいくつもあり、一人の婦人が五つぐらいの婦人団体に所属しているという現状ですので、年間事業計画など調整して村内の各種婦人団体の連携を一層密にし、協同歩調で課題解決に取り組んでいきたいと思います。

司　会　どうもありがとうございました。

村　長　婦人会の活動の大きな目標を青少年の健全育成、生活の合理化、さらには奉仕活動と三つの大きな柱を立てて効果的に進められていることは結構な姿であると思います。

新生活運動で決めたことの中で病気の御見舞返しの廃止、これは徹底してハガキ一枚で済ますようになりたいへんよいことですが、ただ、結婚式とか新築祝等の引き物などは豪華になるばかりですから、是非婦人会を中心に各種団体が協力して生活の合理化、簡素化に一層努力し、さらには有限の資源を最高限度に利用してエネルギーの節約を図っていくことが重要なことであります。

次にボランティア活動の中で最近特に感謝していることは、道路に草花を植えて環境の美化を図る、うるわしい環境、心なごむ郷土づくりの運動が進められていることです。

本村でもだいぶ普及してきましたが花の種子を村が負担するなどして、もっと多くの人が参加して実施されれば一層立派なものになると思います。

それから国道工事などで道路の道巾が広くなったところに、小庭園のように木を植えたり、石を置いたりしているところがありますがこれを部落の小集団グループがボランティア活動で手入れしてもらえば、きれいになると思います。

こういうことは行政の力でやるというのではなく、地元の人たちの奉仕活動によって立派に整備されるのが望ましいことです。

それと婦人会としての広報活動、もちろんこれも大事なことですが、やってみるとなかなか容易でない。

それをやってくれる人、援助する人、あるいは印刷機械とか経費に対する援助も必要になりますね。

司　会　公民館の運営審議会の会長でもあられる吉田さんに、今お話のでました生活合理化運動などについてお願いします。

吉田理事長　婦人会長さんがおっしゃったように病気の御見舞返しは徹底してきたようですし、公民館だよりでも紹介されたように西野の名下部落ではお葬式の香奠返しをやめた。非常に感心しました。

このようなことが全村的に普及すればよいと考えますので公民館などを中心に研究したいと思います。

司　会　農協組合長さん、そのほかにご意見がありましたらお願いします。

農協組合長　先程、円井青年会長さんから青年会の活動についてお話がありましたが、農協も村長さんがおっしゃったように農協に勤める青年職員を研修会等に参加させたいと思います。

それと以前には、花嫁相談所があったように思いますが、本村でも農業後継者が年々結婚適齢期になっていますので、五六年あたりから村当局でこれらの対策を講じていただきたいと思います。

村　長　以前に農業委員会に花嫁相談所の看板をかけて花嫁の世話をする、仲人をして結婚を進めるということをやってみたことがありますが、次第に誰もこなくなって看板を外してしまったことがあります。

花嫁、花婿候補者の名簿を作ったり、婿とり、嫁とりの関係を調べるなど、方法をいろいろ考えてみたいと思います。

青年会長　昭和五五年は青年会の中でも婿とりの方がよく決って結婚が多かったのですが、嫁とりの方はなかなか見つからなかったようです。

農協組合長　お世話をしてくれる方の待遇について考えてみてはどうかと思いますが。

司　会　お話はまだまだ尽きないと思いますが、我が鮫川村の限りない発展を祈りましてこの座談会を終ることにします。

ありがとうございました。

（終）

善意の寄附二件

このたび、大字渡瀬字越虫、藤田美好さん（七〇歳）は老人貸付和牛の多産を記念し、畜産事業費として一万円、木炭製造五〇年を記念して林産振興費にと一万二千円を村に寄附されました。

村では、この寄附金を畜産や林産振興のため有効に使う予定にしています。

また、東野婦人会（会長、遠藤ヒデさん）は鮫川幼稚園の遊具として、お手玉一九〇個を村教育委員会に寄附されました。



写真はこのたび村に寄附をされた藤田美好さん。